

四谷の

千枚田だより



第 118 号

べさせた「イ
ノシシ汁」二
釜も好評で
あった。特設
舞台では連

お田植え感謝の夕べ

六月一日、連谷お助け隊主催の「灯そう千枚田」が開催された。

この催しは既に八年にもおよび全国の棚田における「キャンドル」の先駆けでもある。

この八年、雨に降られた事がない。特に今年は例年よりも十一日も早い入梅宣言のなか誰しも雨を心配したが「勢いで行こう！」と、雨という言葉を禁句に催しの準備を進めた。この勢いにお天道さまも催し日和にひと肌脱いでくれた。

十八時三十分、景観道や小学校駐車場から県道両脇に参加者を安全に誘導するため設置したロウソクに点火。十九時、号砲を合図に「灯そう千枚田」と「ふれあい広場」に設置された「小水力発電施設」完成式の式典が同時に開催された。

会場ではお助け隊の焼肉、焼そば、酒類販売等々にそれなりの熟女や、毎年、人気のサブリーダの娘などが販売に愛想を振りまいた。他に「棚田っ娘」の五平餅販売、保存会の千枚田周辺の農作物をふんだんに食

谷小学校(五名)児童の合唱や親父バンド(ハイコーズ)の熱演に参加者もリズムカルに手を振り上げ、とけ込んだ。会場入り口では毎年参加の「こども陣太鼓」の熱演に取り囲んだ参加者から大きな拍手が揚がった。

小水力発電の完成式を終え、立ち寄って頂いた大村知事さんや穂積市長さんなどから地域起こしに頑張っているお助け隊や参加者に挨拶を頂いた。また、知事さんには参加者に気楽なふれあいをお願い、御年九十四才、ピチピチのよし子お婆あも「元気がなにより」と握手され、長生きのおかげで佳い思いをしたと感涙した。「こども陣太鼓」の面々も知事さんとの記念写真は一生の記憶として残ると思う。

雨を追いやる勢いの連谷お助け隊主催の「お田植え感謝の夕べ」灯そう千枚田も千五百本の幻想的なロウソクの灯りと十五発の花火、特別参加のアトラクションも二十一時をもって無事閉会。参加者七百人、車両百五十台を捌ききったお助け隊に感謝の念を抱く。



小水力発電施設完成式

六月一日、県営「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」により愛知県第一号の小水力発電施設の完成式が千枚田を水源とする「ふれあい広場」で愛知県主催により約七十名が参加する中、大村愛知県知事、穂積新城市長、峰野愛知県議の祝辞の後、イルミネーションにより「千枚田」の文字を点灯した。



【設備の概要】幅五十cm、奥行き四十cm、高さ五十二cmの発電施設。湧水（農業用水）で水を回し、最大1kwの発電が可能。

知事は「規模は小さいが愛知県としての第一号が地域の宝。市、県の顔として知名度・貢献度を挙げてい

ただいている「四谷の千枚田」に設置できたことは大変意義がある。また、本県は農業用の水路延長が全国三位であり、すでに再生可能エネルギーとして小水力発電が県内十四ヶ所で計画、設置を検討している。その第一号であることは目出度い事である。」と挨拶された。

この施設の愛称を連谷小学校の全校児童五名が知恵を出し合い、「でんでんちゃん」と名付け、大村知事さんにプレートを渡し、一緒に記念写真を撮って頂いた。



観察会

六月二日、鳳来寺山自然科学博物館は「四谷の千枚田で生きものを観察しよう」を題材に当館学術委員の水谷先生と(舜)を講師に参加者四十名が早苗の田んぼの生きものの豊かさを観察した。



平成十四年、親子観察会でモリアオガエルの自然再生を視野にオタマジヤクシを放流。三年後にはビオトープや畦くろに植えたナンテンの木に卵塊が見られるようになった。等々の説明と同時に数日前に生まれたモリアオガエルの卵塊に驚きと興味を抱いた。
オタマジヤクシを追うイモリやへび。上空ではノスリやクマタカが

へびなどを獲物として狙う姿が多く見られ、生物多様性・自然の摂理が身近に感じられた観察会であった。と、好評であった。

育農 稲作体験学習

六月六日、豊橋調理製菓専門学校一年生五十名は五月九日に植えた早苗の生育調査と田の草とりを行った。また、恒例の梅取りや地元のお母さん達の指導で地域料理(椎茸のまぜごはん)などの実習に励んだ。



発行 平成二十五年六月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二